

水産資源増殖機能調査

久米 弘人

◆背景・目的

現在の早崎内湖は平成13年に湛水され、琵琶湖とつながっていない閉鎖水域である。今後、丁野木川を介して琵琶湖と接続予定であり、内湖再生が期待されている。本年度は水産資源増殖機能調査として、接続前の早崎内湖の環境、動物プランクトン、魚類相およびニゴロブナ仔稚魚の生育状況を調査した。

◆成果の内容・特徴

- ・早崎内湖は全窒素や全リンが高く、富栄養の状態であった。(図1)
- ・早崎内湖の動物プランクトン量は5月から9月にかけて多かった。(図2)
- ・早崎内湖北調査区ではギンブナやモツゴが多く、外来魚は確認されなかったが、早崎内湖南調査区ではカムルチー、ブルーギルといった外来魚が確認された。(表1)
- ・5月中旬から下旬にかけて早崎内湖北調査区に放流したニゴロブナ仔魚(体長5.1~7.4mm)は2月上旬に体長75.8mmに成長した。

◆成果の活用・留意点

- ・今後、琵琶湖との接続にともなう環境、魚類相および生産力の変化についての検討を行う。

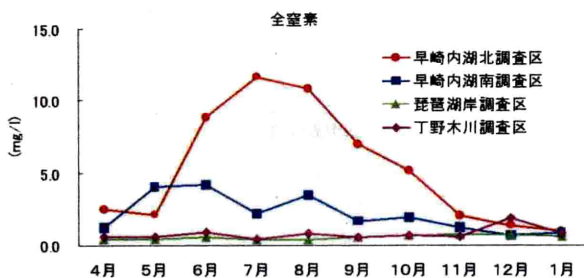


図1. 全窒素と全リンの推移

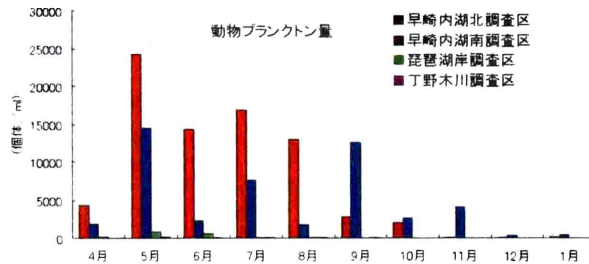
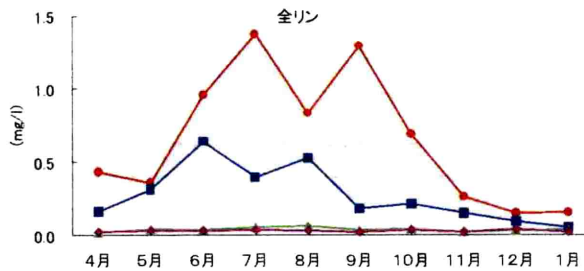


図2. 動物プランクトン量の推移

表1. 魚類採捕結果(個体数)

項目	早崎内湖北調査区					早崎内湖南調査区			琵琶湖岸調査区		
	4月25日	6月22日	8月24日	10月21日	12月27日	4月25日	6月22日	8月24日	4月25日	6月22日	8月24日
ギンブナ	325	235	459	167	28				3		
ニゴロブナ	13	49	8	3	1				6		
モツゴ	252	452	26	91	13				9	5	
フナ稚魚				185	2						
その他在来魚類	72	64	19		9						
オオクチバス									1		
ブルーギル									41	31	15
カムルチー				12	1						8

BL40mm以下のフナ類はフナ稚魚とした
10月と12月の琵琶湖岸調査区は水位低下のため欠測